

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の専門領域〔聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学、組織神学(宗教哲学を含む)、実践神学〕とその内容について学部の内外に周知を図ると共に、神学部の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開(WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載])	C	C	B	A	A
2. 上記専門領域を基礎とした履修コース(キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース)それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂(ともに2011年度までに)	B	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム研究委員会(学部)、学部長室委員会・教授会で審議の後、コース別の「履修モデル」、また各専門領域の「履修が望ましい科目」(学年ごと)を作成し、WEB上ならびに『履修の手引』に掲載し周知を図った。これにより設定の目標については、2012年度までに達成をみたものと考えている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「履修モデル」「履修が望ましい科目」の活用について、アンケートなど組織的・直接的に学生に尋ねてはいないが、4年次の「特殊研究演習」、いわゆるゼミナール選択の際に参考にしているようである。しかし「履修が望ましい科目」については、1年次から領域を区別し、各専門科目を勧める構成となっている点に改善が必要であるとの声が、領域担当の教員から聞かれる。1年次から自身の専門領域を決めている学生は多くなく、また実際は1年次から学年ごとに領域専攻を考えるよりもジェネラルな教育を実施している。そのような点から見直し、一層実効性のあるモデルとしていきたい。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度に予定するカリキュラム改編に際して、カリキュラム研究委員会(学部)において「履修モデル」「履修が望ましい科目」を改めて検証し、新たなモデルの明示方法を検討する。さらには、学部の理念・目的の適切性についても文言整理を含めて再検討し、より効率的に理念を体現するような履修体系の構築を目指す。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム研究委員会(学部)、学部長室委員会・教授会で審議の後、カリキュラムの一部改定とそれに見合ったコース名称の再検討・一部改訂(「キリスト教神学・伝道者コース」を「キリスト教伝道者コース」に変更)を2011年度までに実施している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「キリスト教神学・伝道者コース」を「キリスト教伝道者コース」に名称変更することにより、同コースにおける伝道者育成のねらいを明確にした。同時に当該コースからあえて「神学」のふた文字を除くことで、「キリスト教思想・文化コース」生も含めた学部の全学生が、キリスト教神学のカリキュラムのもとで学修する意図がより明瞭になった(2011年度)。また、その考え方のもとに先んじて実施したカリキュラム改正(2010年度)によって、2年次までの履修体系をほぼ共通化し、両コースの関係が密接なものとなった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本目標についてはすでに達成されたものと捉え、一層大きな視点からその適切性、改善点を検討する。	☆
		その他	☆
備考			☆